

古代王権の宗教的世界観と出雲

菊地, 照夫 / KIKUCHI, Teruo

(発行年 / Year)

2019-09-15

(学位授与番号 / Degree Number)

32675乙第242号

(学位授与年月日 / Date of Granted)

2019-09-15

(学位名 / Degree Name)

博士(歴史学)

(学位授与機関 / Degree Grantor)

法政大学 (Hosei University)

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00022403>

法政大学審査学位論文の要約

古代王権の宗教的世界観と出雲

菊地 照夫

日本古代史の中で出雲は特別な地域として位置づけられている。古事記・日本書紀の神代の部分（いわゆる記紀神話）では、出雲は地上世界である葦原中国の中心的地とされ、古事記の神話では出雲にかかわる物語は全体の三分の一に及ぶ。葦原中国の国作りの神オオナムチは同国の支配権を天上世界の神々の側に譲渡（国譲り）して、自らは出雲に隠棲し天上から派遣されたアメノホヒに祭られたとされるが、出雲にはこの神話の記述を具現化する杵築大社（出雲大社）が存在し、アメノホヒの後裔である出雲国造によって同社に坐すオオナムチの祭祀が行なわれている。その出雲国造は就任すると上京して天皇に神宝を献上するとともに神賀詞を奏上したが、このような特殊な儀礼を行なうのは律令国家が掌握する全国の神社の神職の中では出雲国造だけである。本論文は、このような日本古代史における出雲の特殊性の意味、その歴史的背景を解明することを課題としている。

古代出雲の特殊性は記紀の神話に端的に表れている。記紀の神話は八世紀の編纂物ではあるが、その素材は王権の神話やそれを前提とした王権に奉仕する氏族の神話であり、そこには王権の宗教的世界観が反映されている。記紀の神話に描かれている世界観は、王権支配の正統性を保証する根源的な世界である天上世界（他界）と、王権の支配すべき世界としての地上世界（現世）の垂直的な他界観を基軸としており、地上世界は葦原中国とも称されるが、出雲はその地上世界を代表する地として王権神話に位置づけられている。地上世界は常世国・根国・黄泉国などの他界ともつながっているが、これらは水平的な他界である。出雲はこれらの他界との結節点とされている。このような記紀神話の世界観に反映されている王権の宗教的世界観とは次のようなものである。

稲作農耕社会を基盤とするヤマト王権の宗教的世界観は、稲作農耕民に普遍的な稲霊信仰に規定されている。稲霊信仰とは、稲には稲霊が存在し、稲の稔りは稲霊の霊力の発現によってもたらされるという信仰であるが、この信仰は稲霊と人間の霊力を同質のものとしてとらえる霊魂観を伴う。この信仰がなぜ稲作農耕社会に普遍的にみられるかという点、それは稲に人間の霊力の素となる稲霊が宿っていると信仰されているからに他ならない。この信仰によって稲作農耕社会では稲・米は他の農作物・食物とは別格の物として扱われるのである。稲作農耕社会とは要するに稲霊信仰を共有する社会なのである。

その稲霊信仰は次のような宗教的世界観を伴う。

- ①稲霊は春、種籾に内在して他界から現世に來臨する。
- ②種籾はそれのみでは発芽も生長もしないように、稲霊は現世に属する地霊・水霊などの外在的な霊力に育まれて霊威を発動して稔りをもたらしすることができる。
- ③稔りをもたらし、霊力を使い果たした稲霊は「死」の状態に陥り、他界へ帰還する。
- ④他界は稲霊の霊力を再生する世界であり、冬の間に霊威を再生し、翌春、霊力に満ち溢れた状態となって種籾に内在して現世に來臨する＝①へ

稲作農耕社会を基盤とするヤマト王権の宗教的世界観は、こうした稲霊信仰に規定されているのである。

第Ⅰ部では、王権の宗教的世界観を反映している記紀の神話・伝承の多くに稲霊信仰の宗教的世界観のモチーフに基づくストーリー構成がみられることを明らかにする。

記紀神話では複数の個別神話を接合して神代史が構成されているが、その個別神話には王権祭祀を反映した祭儀神話という性格がある。王権祭祀は王権の宗教的世界観に基づいて執り行われるものであり、したがってそれを反映した祭儀神話にはその宗教的世界観が

描かれている。稲作農耕社会を基盤とするヤマト王権においては稲霊信仰がその宗教的世界観を規定しており、記紀神話を構成する個別神話にはその要素が認められるのである。この傾向は神話だけでなく、記紀の伝承にもみることができ、そうした神話・伝承を分析して、五世紀のヤマト王権の宗教的世界観が水平的他界観であったことを明らかにした。

第Ⅱ部では、ヤマト王権の発展とともにその宗教的世界観の様相が変遷していく中で、出雲がいつ、なぜ、どのようにその世界観において特殊な地域として位置づけられていくのかという問題を考察した。

六世紀中葉の欽明朝期は国家形成の大きな画期であり、この時期に世襲王権が形成され、それにともない王権の宗教的世界観もそれまでの水平的な他界観から記紀神話にみられるような天上世界―地上世界を基軸とする垂直的他界観に変化し、この段階で地上世界の中心に出雲が位置づけられたと考えられる。出雲がヤマト王権に特別視されたのは、出雲の玉作に原因があったとみられる。第Ⅱ部ではこうした宗教的世界観の転換と出雲の特殊化の問題を論じ、その中で紀伊と出雲の間に何らかの関係があり、宗教的部民である忌部を統括する忌部氏の玉作への関与がそこに介在することを明らかにした。

第Ⅲ部では、ヤマト王権の新嘗と祈年祭について考察した。新嘗（大嘗）・祈年祭という稲作に関わる祭儀は律令制祭祀の中核となるものであったが、令制祭祀としての新嘗（大嘗）・祈年祭が、令制前代のどのような祭祀と連なるかは、これまでの研究では十分に解明されていない。この問題についても稲霊信仰の視点が有効である。

今日一般的には、祈年祭は春に稲作の豊穰を神に祈請する予祝祭、新嘗祭は秋に収穫した初穂・新穀を神に供える収穫感謝祭と理解されている。しかし稲作農耕儀礼は稲霊信仰の宗教的世界観に基づいておこなわれるものであり、祈年祭や新嘗祭の本質的な意義は稲霊信仰の観点から理解されなければならない。すなわち稲霊信仰の観点からすると祈年祭は春に稲霊を育む現世の地霊・水霊を祭る祭儀である。またそこには稲霊と地霊・水霊との交接の要素も含まれる。稲の豊穰を予祝するという祭儀であることには違いないが、現世の地霊・水霊が中心的な祭祀対象となる祭儀であり、上記の①～④に整理した稲霊信仰の宗教的世界観の展開では②に当たる。一方、新嘗祭は豊穰をもたらして霊力を使い果たして「死」の状態となった稲霊を再生させる儀礼である。上記の④に相当する信仰的な意義のある祭儀である。第Ⅲ部ではこうした稲霊信仰の宗教的世界観に基づいてヤマト王権の新嘗祭が王権の直轄地である屯田に設けられた斎田の稲を用いて行われたこと、ヤマト王権の祈年祭がその斎田の地霊神の祭祀であることを明らかにし、天孫降臨神話、国譲り神話がそれぞれの祭儀神話であることを指摘した。

第Ⅳ部では、律令国家の下で出雲国造がおこなう神賀詞奏上儀礼について考察した。国譲りの神であるオオナムチを祭る杵築大社、その祭祀を司る出雲国造の存在は出雲の特殊性を実態的に示すものだが、この儀礼を王権に対する出雲の服属儀礼ととらえる見方は根強い。しかし出雲国造は系譜的にはアマテラス大神の子であるアメノホヒの子孫であり、王権側に属する立場にあり、葦原中国の国作りの神であるオオナムチを鎮祭する役割を負っている。王権の宗教的世界観においては現世である葦原中国は王権の支配すべき世界であり、その国を作ったオオナムチから国土の支配権を譲渡させ、出雲国造の祖神アメノホヒがオオナムチを祭り鎮めることにより王権の国土支配は保障されることになる。神賀詞奏上儀礼における神宝はアメノホヒがオオナムチを鎮祭する呪具に由来し、同儀礼ではそれを天

皇に献上して天皇にその靈威を付与（タマフリ）することにより、天皇の国土支配権が保障されるという宗教的な意義をもった儀礼であったと考えられる。

それとともに神賀詞奏上儀礼は祈年祭との関係が指摘されているが、本論文のまとめとしてこの問題を考察した。神賀詞奏上儀礼は八世紀にはほとんど祈年祭と同じ二月に行われており、しかも出雲国造とともに出雲の全ての官社の祝部も国造に同行して上京しており、祝部は神祇官で行われる祈年祭にも参列したことはまちがいない。また神賀詞詞章には国譲り神話が語られているが、国譲り神話の原形がヤマト王権の祈年祭の祭儀神話であることは第Ⅲ部で指摘している。

このように神賀詞奏上儀礼は天皇への靈威付与のタマフリ儀礼であるとともに祈年祭とも関わるのであるが、こうした律令国家のもとで行われる神賀詞奏上儀礼のあり方は歴史的に形成されたものである。その意味を理解するためには六世紀以降の古代国家形成史の中でのヤマト王権と出雲との関係の変遷とそれにともなう王権の宗教的世界観における出雲の位置づけの変遷をあとづけ、それを踏まえて八世紀、律令国家段階の神賀詞奏上儀礼の性格を検討する必要がある。終章では6世紀に出雲が王権の宗教的世界観の中で現世の中心に位置づけられてその実態化が図られていき、7世紀の斉明朝に杵築大社が創建されてオオナムチが祀られ、その祭祀を出雲国造が担うとともに神賀詞奏上儀礼を行うに至るプロセスの諸段階を明らかにした。そして律令国家形成にともなって大嘗祭が成立し、それとともに王権の祈年祭が神賀詞奏上儀礼と一体化することを指摘した。

以上の考察を通して本論文では日本古代史の中で出雲が特殊な地域として位置づけられていることの意味とその形成過程の解明を試みた。